特定非営利活動法人 シビルNPO連携プラットフォーム
CNCP通信 Vol.6
平成 26 年 10 月 14 日発行

巻頭言

シビル NPO の厳しい道のり

CNCP 常務理事　**辻田　満**
（NPO 法人シビルサポートネットワーク代表理事）

2012 年（平成 24 年）4 月土木学会に建設系 NPO の中間支援組織を創設する準備組織として CNCP の前身組織である（仮称）建設系 NPO 連絡協議会が設立され、そこに主として建設系 NPO 組織として活動している 30 数団体がメンバーとして加盟されました。

発足当初、私たちは建設系 NPO の活動現況は良くわかりませんでした。また、NPO の活動を取り上げた多くの資料においても建設系 NPO の姿は見当たりませんでした。しかし、加盟した 30 数団の活動内容を見ることによって建設系 NPO の活動自体がけして皆無であったのではなく、過去に相当の活動を展開してきているにも関わらずその活動実態は広く社会に顕在化することなく従来の市民活動やボランティア活動と一括りにされて特質されてこなかっただけであったことが明らかとなりました。また、建設系 NPO の活動内容を分析してみると政策提言活動や市民啓発活動、事業型活動が著しく少ない現況も明らかとなりました。

（仮称）建設系 NPO 連絡協議会では建設系 NPO が今後 CNCP をプラットフォームとして事業を行うにあっての課題や問題点を探る目的で 3 つの試行事業を立ち上げて取り組みました。その結果、今後 CNCP として取り組むべき多くの課題や問題点が明らかとなりました。特筆すべき課題は、どの試行事業においても推進するに当たって大きな障害となったのは事業を進める上でのパートナー探しでした。建設系 NPO は社会基盤やインフラを取り上げたテーマが多く、これには行政との連携が不可欠でした。現実にはどのテーマも試行事業期間の大半がこのパートナー探しに費やされたのでした。大きな要因としては建設系 NPO の社会的認知度が極めて低いと同時に事業担当 NPO の知名度がないことでした。

土木学会創立 100 周年記念事業として我が国では初めての建設系 NPO を取り上げた書籍が間もなく出版されます。その中で建設系 NPO は「シビル NPO」と称されています。今後のシビル NPO の活動は団塊世代のシニアデビューの潮流の流れの中で確実に存在感が増すとともに新しい公共や共助社会づくりを担うべき期待されるサードセクターとしてその役割が顕在化していくことが書かれています。シビル NPO を構成する人材の多くはプロフェッショナルのエンジニアとしてインフラ・まちづくりに従事してきた専門の技術や多くの経験を有した専門家であり、間違いなく今後シビル NPO が社会を変える大きな存在として位置づけられてくるでしょう。新しい公共や共助社会づくりの取り組みは今後、全国至る所のインフラ・まちづくりの主流になって行くことは間違いのないことと思います。しかし、シビル NPO が正当な立場で活動していく為には社会の制度や仕組みを変えていくことが必要で、それには CNCP が個々の組織では難しかった政策提言や市民啓発を社会に発信し、シビル NPO が行政・企業・大学と更なる連携が可能となる活動をして行かなければならないと思います。シビル NPO が補完からその主役の一人へとなって行くためにはまだまだ多くの困難が伴うことでしょう。